

豪総選挙と豪ドルについて

<6年ぶり政権交代>

9月7日に行われた豪総選挙では、野党・保守連合（自由党と国民党）が大勝し、約6年ぶりに政権が交代、自由党のアボット党首が次期首相に就任することになりました。

保守連合は下院（定数150）の過半数を上回る議席数を獲得、これまで2大政党とも過半数を取れず「ハング・パラメント（宙ぶらりん議会）」と呼ばれた状態も解消され、政策運営も安定化すると見られます。

アボット党首は法人税減税、道路網などのインフラ整備を公約としてあげており、減速傾向にある豪経済を立て直す方針です。

<豪ドルは回復傾向>

豪ドルは、8月末は1豪ドル=0.90米ドルを割り込み軟調に推移していましたが、足元では4日に発表された4-6月期GDPが前年比+2.6%と、前期（同+2.5%）を上回り底堅い動きとなったことなどから1豪ドル=0.91米ドル近辺に回復しました。

選挙後の豪ドルは、やや上昇しています。

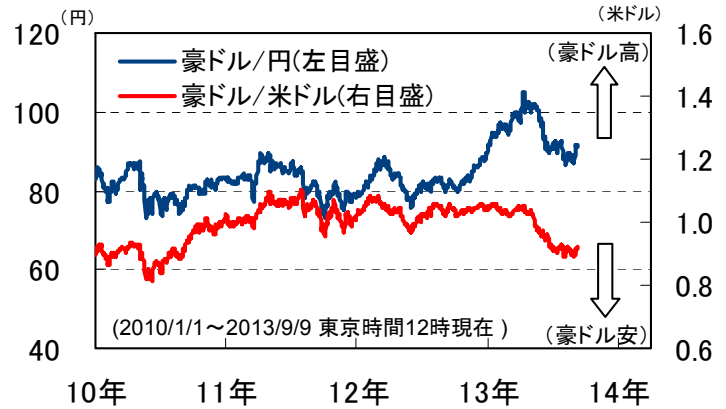
9月9日東京市場12時現在、1豪ドル=0.9196米ドル、1豪ドル=91.58円程度となっています。

<為替の見通し>

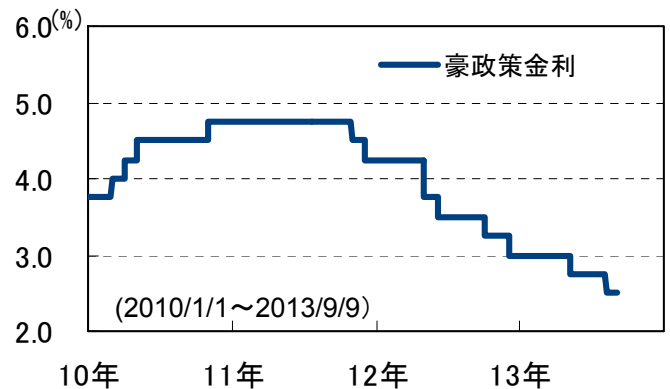
豪ドルは、政策金利の引き下げ懸念や米FRBの量的緩和縮小に対する思惑などに振られる展開が続いています。

しかし、産業界寄りと言われる保守連合への政権交代による国内景気回復への期待感や、最大の貿易相手国である中国の経済指標に回復の兆しが見え始め、中国景気底打ち期待が高まりつつあることなど、内外に明るいニュースが増えてきており、下値は限られると思われます。中長期的には、先進国の中では相対的に高い利回りや最上位格付けを維持する同国の安定性等も下支えになると見られます。

<豪ドル為替の推移>

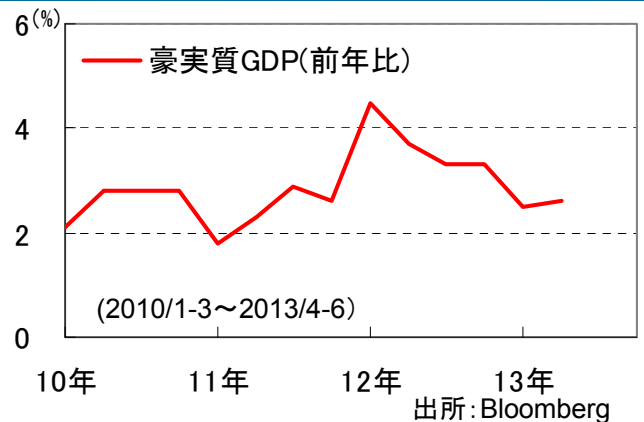


<豪政策金利の推移>



*政策金利は発表日ベース

<豪GDPの推移>



■当資料は情報提供を目的として大和住銀投信投資顧問が作成したものであり、特定の投資信託・生命保険・株式・債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に記載されている今後の見通し・コメントは、作成日現在のものであり、事前の予告なしに将来変更される場合があります。■当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。■当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。



大和住銀投信投資顧問

Daiwa SB Investments

商号等
加入協会

大和住銀投信投資顧問株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第353号
一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会